



Subaru

男声合唱団 ニュース №.212 09. 12. 10

創作コーラスミュージカル公演20年

寄 稿

合唱団TERRA、そして「檀・村嶋ワールド」の軌跡

男声合唱団昴 立川孝信

賑やかなカーテンコールが終わると合唱団主宰で指揮、主演の檀美知生氏が「脚本、演出、作詞の村嶋由紀子からご挨拶を申し上げます。」と紹介すると彼女はゆっくりとした口調でしかも感慨深い面持ちで語り始めた。「20年前、TERRAはたった二人でスタートしました。普通の人々がTERRAに集い、20年間追及し続けた精神は愛と平和そして震災からの復興の思いでした。今日まで続けてこられたのは、歌う仲間がいたから、素晴らしい作品を作る仲間がいたから。聴いてくださる皆さんがいたからです。・・・」



これは11月22日、23日に神戸の松方ホールを満員で成功させた合唱団TERRAの創立20周年記念、23回目の公演、コーラスミュージカル「光と風のカフェテラス」の舞台挨拶である。20年間で23回ものコーラスミュージカルの公演を行い、毎年3000人規模の観客で成功させて来たということに「自分を褒めてやりたい。」と言える感慨深いものがあったに違いない。

20年前というとお二人は40歳くらいの働き盛りで、檀氏は大企業のビジネスマンとして世界を飛び回っていた。村嶋氏は中堅の中学校教師として多忙の毎日であったと聞いている。そんな二人がどうしてこんな大事業を思い立ったのか「普通の人達が普通の歌を歌う、世界のどこにもないコーラスミュージカルを目指したい。」とスタートしたという。最初はミュージカルスターを目指す若者が殺到したという。歌って、踊って、そして華やかな舞台にと夢を膨らませたに違いない多くの若者たち。しかし、ソロとして自分の実力を磨くこともさることながら「コーラス」という魅力いや魔力にはまり込んだに違いない。決して良い声でなくとも自分の声が他の声と響きあい、美しいハーモニーに変化していく心地よさ、そしてその歌も実感のない浮かれ歌ではなく、人々の魂を揺さぶる真実の歌に、きっと歌う喜びや人に伝えるとの大切さを体感し、成長してきたのだと思う。それは多くの若者いやあらゆる世代の人々の心を掴み、世界に一つのコーラスミュージカル「檀・村嶋ワールド」を創り上げたのだと思う。

妻が作品を創作、演出し夫がミュージカルとして磨き上げていくというこんな芸術的ベストカップルを見たことがない。ピアニストと声楽家という演奏家同士のカップルはよく有る。しかし、このお二人の様に、本職でも多忙を極めながらオリジナルな作品を創作し続けて毎回3000人規模の公演を催し、障がい者を招待し活動を支援し続け、そして多くの観客に生きる勇気と感動を与える。そんな活動集団が日本にいや世界にあるだろうか。

今年は20周年として、その集大成ともいべき「愛・いのち・平和」をしっかりと歌い上げた。南京虐殺を体験した老人が主人公で、その侵略戦争の檻の中で人間性を奪われ、鬼となり、その傷が家族を素直

に愛せない人生を送ることになる。しかし、人を愛すること、人の力を信じること、そして何よりも平和な社会を築くことをめざして、美しい花と音楽が溢れ、人々の心が通い合う街をつくっていくというストーリーの展開は、感動的であり今までの創作の真骨頂というべき完成度の高い作品で、主人公の歌うテーマ曲「わが罪、わが愛、そして命」「巨大開発の歌」「出征の歌」「この町を愛

する歌」「鬼となる軍人の歌」など歌がたっぷりと盛り込まれ、時にはシックに歌い上げ、時にはコミカルなダンスも入り、楽しく飽きない舞台が展開した。

町民たちで取り組む町おこしのためのフェスティバルのシーンではうたごえ運動の最長老「檀上さわえ」や男声合唱団昂をゲストに向かえ、最後は主人公の指揮で中国の歌を合同演奏するという心憎い演出であった。ミュージカルのラストは町民すべてがフェスティバルの成功を喜び合い、テーマ曲を歌い巨大開発を許さない平和な街づくりを予感させる大合唱で終わった。

ストーリーの中では今風のオレオレ詐欺、「派遣で使い捨ての若者」「追い出し屋」「使いまわし」そして在日中国人、在日朝鮮人も登場し日本の現状や、侵略の歴史をきっちり描いていた。

このような作品を生み出し多くの人々を感動させるエネルギーは一体どこから生み出てくるのだろうか。しかもあの阪神大震災をバネに破壊された街に大借金をしてホールを建設し、今日の活動を続けて来られたという。

自分達の財力、知力、創造力、指導力等々を自分の生活のみに費やすのではなく、いつも子供たちの未来のために「愛と平和」の精神を持ち続けて創造活動を続けて来られたお二人に心からの拍手を送りたい。

